

## ○現在の姿

市町村は、事業の実施主体として、「助言」「調整」「基盤整備」といった県の後方支援を受けながら、住民サービスを実施。



## ○連携中枢都市圏形成後の姿

従来の枠組みは継続しつつ、市町村が横の連携をすることにより相乗効果を生むことが出来る事業を連携中枢都市圏で取り組む。

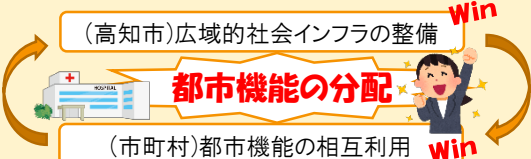
### ア 経済成長のけん引

高知市と市町村の経済的な結びつきの強さを活かした互恵関係の構築

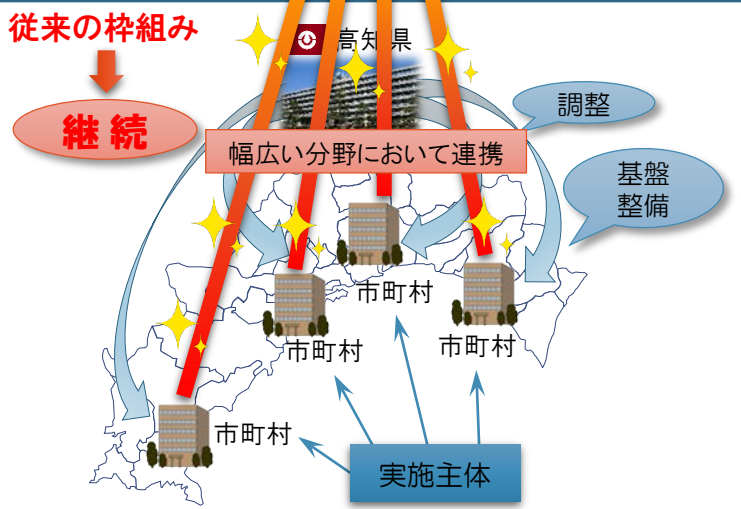


### イ 高次の都市機能の集積・強化

人口減少の中、都市機能を相互利用することで、各市町村における個別の都市機能整備の課題を解決。



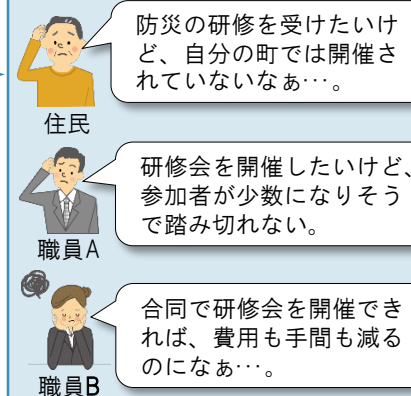
## 連携中枢都市圏の形成



## ウ 生活関連機能サービスの向上

市町村が連携することにより  
①住民サービスの向上  
②行政事務の効率化を実現。

### 【例】防災リーダー研修



高知市で開催する研修会を  
双方向の送受信システムで  
つなぎ、圏域内6ブロックの  
サテライト会場で同時受講

